

第 1 回安曇野市地域公共交通協議会兼公共交通会議・幹事会 会議概要

1	委員会名	安曇野市地域公共交通協議会兼公共交通会議幹事会
2	日 時	平成 22 年 1 月 8 日 (金) 午後 1 時 30 分 ~ 2 時 30 分
3	会 場	安曇野市堀金総合支所 301 会議室
4	出席者	奥山委員、(代)山岸委員、(代)小林委員、(代)竹淵委員、鈴木委員、小岩井委員、耳塚委員、鵜委員、川上委員、松田委員、小林委員、米倉委員、会田委員、槇石委員、斉藤委員、宮崎委員、丸山委員、細川委員、事務局(小倉企画政策課長、高嶋、野口、NTT 3 名)
5	公開・非公開の別	公開
6	記者	0 人
7	傍聴	0 人
8	会議概要作成年月日	平成 22 年 1 月 12 日

協 議 事 項 等

会議の概要

- 1 開会 (小倉企画政策課長)
- 2 あいさつ (奥山幹事長)
- 3 議題
 - (1) 地域公共交通活性化・再生総合事業に係る事後評価について
 - (2) 松本市四賀地域公共交通総合連携計画について
 - (3) 平成 22 年度地域公共交通協議会事業計画(案)及び予算(案)について
 - (4) その他
- 4 閉会 (小倉企画政策課長)

協議概要

- (1) 地域公共交通活性化・再生総合事業に係る事後評価について

資料 1 に基づき、事務局から説明

- ・この事業については、事後評価をし、その結果を市民に公表することになっている。
- ・あづみん等については、実証運行を実施し、その実態調査として、利用者アンケートも行っている。
- ・あづみんの運行のほかにも、観光に関する交通についても調査・研究を行っている。
- ・あづみんの本年度の利用者目標を 1 日当たり 385 人とし、利用状況を把握するとともに、満足度調査を行い、その結果も分析している。
- ・問題点や課題についても協議会などを通じて検討し、持続できるシステムかを検証している。
- ・財源的なものについても、安曇野市からの負担金等を受け、事業を行う基盤は確定している。
- ・事業の利用促進についても「豊科スタンプ会」の自主的な取り組みとして、ポイント利用によるあづみん回数券の割引制度を設けてもらっている。
- ・協議会、幹事会、作業部会を公開で開催し、市民の意見もお聞きし、それを反映する体制が整備されている。
- ・利用者についても 12 月 25 日には過去最高の 475 人を記録するなど、順調に推移している。
- ・ただし、アンケート調査では、『予約が取れなかったことがある』という方が発生していることが伺われるので、今後の課題である。
- ・総合評価としては、昨年度の課題を克服しつつ、計画に定められた事業を適切に進捗してきており、その結果、利用者からも高い評価を得ていると分析できる。

奥山幹事長：質問、ご意見をいただき、修正する部分を指摘いただきたい。

鵜委員：利用状況で 5 月が前年と比べ少ないが、先ほど大口利用者が減ったという説明があったが、この時期にということか。

事務局：ある障害者施設の入所者が増え、このため施設内でまとまって共同作業所へ行くことになり、施設送迎を行うようになったため、4 月からあづみん利用数は減少した。

鵜委員：4 月、5 月には穂高神社の大遷宮祭があったが、あづみんの運行に何か変更があったか。

事務局：あづみんの運行は現状と同じであり、特に影響を受けたようなことはない。なお、大遷宮祭については、「周遊バスの運行」など別の交通体制を敷いた。

奥山幹事長：特になければご了承ということで、次に進める。

ただし、数値等に訂正があれば、幹事長の責任の下で修正し、国へ報告させていただく。

(2) 松本市四賀地域公共交通総合連携計画について

資料2に基づき、事務局から説明

- ・この議題の提案理由は、松本市で「松本市四賀地域公共交通総合連携計画」を3月までに策定する予定であり、この中の計画区域に『明科地域』を加えたいので、当市の承認をいただきたいということである。

計画区域に加える理由は、地域外交通として民間路線バス「会田線」があるので、明科地域は関連があること、また地域内交通を考える上で、安曇野市の交通、安曇野市内交通事業者と連携する可能性があるため、四賀地域だけではなく、明科地域まで地域を拡大して定めたいということである。

奥山幹事長：これに関し、何かご意見があれば出していただきたい。特に交通事業者の方から意見があれば発言していただきたい。

耳塚委員：この計画の事業については、松本市内の交通事業者が行うと理解して良いか。

奥山幹事長：この計画を推進する上で、必ずしも松本市内事業者に限定されるとは限らない。

耳塚委員：梓川地区では松本市の事業者がバス運行を行っているが、特に安曇野市内事業者に影響があるものではないと考えている。しかし、デマンド交通を明科地域へも広げるようなことは、安曇野市の利用者に混乱が乗じる可能性もあるし、市内の事業者にも影響があると思うので、慎重に検討をお願いしたい。

事務局：要望、意見として松本市へ伝える。

奥山幹事長：今後も何かあれば、事務局へ伝えることとし、次の議題に移る。

(3) 平成22年度地域公共交通協議会事業計画(案)及び予算(案)について

資料3に基づき、事務局から説明

- ・事業計画については、「あづみんの運行」、「あづみんの検証」を行っていきたいと考えるが、特に平成22年度は最終年であるので、「3カ年の検証」を重点課題としたい。
また、その他観光に関する交通についても、検討と検証を進めたい。
- ・予算については、査定中ではあるが事業自体は承認されている。
あづみん等の運行費に7,480万円、あづみん等の3カ年の総括検証に419万5千円を計上している。
収入については、国の動向が不透明なため、補助金については、『1千円』とし、ほぼ全額を安曇野市の負担金で構成している。

奥山幹事長：国で「事業仕分け」などが行われる中、この再生総合事業補助金の動向を注視していたが、ほぼ前年度当初予算並み予算が要求されるものと想定している。

ただし、全国的には地域交通が大きなテーマであり、事業体が増えると予測されるが、一定の事業費は確保されると思われる。

今回は事業計画などに対する委員の意見をいただきたい。

斉藤委員：あづみんの登録制度を知らない人もいるようだが、登録人数はどうなっているか。

また、これについて来年度どのように取り組まれる予定かを説明してほしい。

事務局：登録者数は25,246人である。

まず、登録をしてもらえるように誘導し、合わせて利用者の増加を目指したい。

斉藤委員：あづみんや登録制度も知らない人があるので、できるだけ周知に努力いただきたい。

事務局：会報などを通じて、登録を呼びかけたい。

松田委員：周遊観光バスなど、観光客の交通はどんなものがあるか。

事務局：本年度は観光協会が市内観光として周遊バスを運行している。また、タクシー事業者が登山客向けの「中房線」という路線バスを運行している。観光に関する交通支援は重要課題であり、協議会の中でも重要な課題として、作業部会で検討を進めている。

奥山幹事長：安曇野市の方向性が『観光振興』ということもあるため、現在、観光に対し、交通という面でどういう支援できるかを検討している。この幹事会の後も引き続き作業部会を開いて検討する予定であり、3月の協議会では報告したいと考えている。

丸山委員：あづみんの利用者は70代以上の高齢者が3割を占めるが、高齢者は乗り降りに支障があったり、時間がかかるということがあると思うが、この点の対応はどのようになっているか。

事務局：あづみんについては、車輛改良でステップをつけるなどの対応を図っている。

奥山幹事長：私が最初に取り組んだ旧小高町では、運行から8年が経過し、利用者がさらに高齢化しており、これに対応するため、『手押し車』を積めるような車輛を全国初で導入した。まだ、利用回数は1回で、利用者が気を使って利用しない面もあるので、運転手とオペレーターが合間でマナー講習会も開く予定である。

旧小高町では、デマンド交通の利用者の中心が80代となってきている。こうした高齢者の方々が利用しやすいようなサービスを提供していく必要がある。

安曇野市でも運転手、オペレーターと利用者とは意思疎通できるような体制づくりについても取り組みたい。

岡沢委員：あづみんの3カ年の検証をするということであるが、本格運行に向けた計画もつくるということか。

事務局：そのとおりと考えている。

奥山幹事長：次の総会までに時間もあるので、それまでに気づいたことがあれば事務局へ連絡してほしい。今日の議題は全て終了したので、これで終了する。

以上